

令和4年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県北会場

科目 ①障害児の支援 インクルーシブ教育

- ◆ 今回の研修で、気になる子どもの理解と対応、要因と支援について学びました。研修の始めに、担当している子どもがどんな子かを考える機会があり、思い付くことを5つ紙に書きました。講師の先生に「子どものマイナス面ばかり見ていませんか？」と言われ、ハッとしました。マイナスだと思っていたことは、見方を変えたらプラスになると知りました。障害の有無に関わらず、全ての子どもが仲良くなれる活動を取り入れ、協力し合いながら過ごせるよう支援していきたいです。
- ◆ 今回の科目で「合理的配慮」が強く印象づけられました。頭の隅に「障害児＝できない」と決めつけていた部分がありました。しかし、その子たちの特徴・特技を生かす環境を整えれば健常児と変わらずに生活できること、全員が自信をもって過ごし成長していけることを確信しました。褒める時も注意する時もどこか言葉足らずな所があるのではないかと考え直すことがあるので、具体的に話し、善し悪しが理解できるように、支援員として努力していきたいです。
- ◆ 真の自己肯定感とは、自らの潜在能力を信じ、良い所や悪い所を含めて自分は自分であって大丈夫だという感覚であることを学びました。悪い所を自分自身で受け入れられないと自尊感情が低下し、問題行動や不登校などの二次障害を引き起こしてしまいます。そのため、子どものマイナス面ばかり見るのではなく、リフレーミングを取り入れたり、心情に寄り添った支援をすることで、子どもたちの自己肯定感を高めていきたいと思えます。
- ◆ インクルーシブ教育という言葉を知りました。共生社会の形成に向けて、個人に必要な合理的配慮の提供は、私たちの仕事をするうえでも大切なことだと思いました。要因と支援を考える時にも、一方向からではなく多方向から見ることで見方を味方に変えることができるのだと思いました。一人では思い込みなどで見方が偏るが、職場の同僚等と力を合わせることで手助けを必要とする児童に対して支援をしていけるのではないかと感じました。
- ◆ 障害のある者となない者が共に学び、一人一人の多様性を尊重し、障害のある者には合理的配慮が提供される必要があります。支援員が子どもにとって集中しやすい学習環境を整える配慮や最後までやり遂げる経験の積み重ねや決まりごとの内容と意義を理解させ、その徹底を図る支援や本人の心情に寄り添った支援が大事です。見方を味方に変えて周りの子どもにも理解してもらい、楽しく生活できる支援をしていきたいです。